

企画展 第28回

作家展

〔日本盆栽作家協会〕

会期／前期 令和元年11月15日（金）～11月20日（水）

後期 令和元年11月22日（金）～11月27日（水）

会場／さいたま市大宮盆栽美術館

主催／一般社団法人日本盆栽作家協会

前期



五葉松 鉢：勝山袋式楕円 山田登美男（埼玉県）

五葉松の形態で、これほど清々しい風情を表した景色も珍しいと思います。特に根元の株立状の立ち上がり、その丹精な幹肌は格別です。鉢との調和にも工夫をこらしました。





五葉松 鉢：平成渡長方 今井 千春（神奈川県）

この五葉松は、立ち上がりりのサバ幹に魅力を感じ、3年程前に入手しました。上部の枝を抜き天ジンにすることで、樹高縮小と共に、より迫力のある姿になりました。まだ未完成ではありますが、今後も枝作りに専念し、樹格向上を目指したいと思います。

五葉松

鉢：南蛮丸

矢内 信幸（大阪府）

昭和初期に発表された古木で、その当時有名な小林作太郎氏が手がけた文人風な山採りの五葉松です。昭和・平成を代表する盆栽愛好家である高木禮二氏が愛蔵された一鉢でもあり、今日、改めて完成に近い姿での出展となります。





姫しゃら 鉢：白交趾楕円 須藤 雨伯（栃木県）

姫しゃらの優雅な「艶^{つや}の美」が好きで、多くの盆栽を丹精してまいりました。しかし、現在はこの一鉢だけが生き残り生命を美しく輝かせております。幹肌の色気、幹の優美な立ち姿、繊細な枝の妙味、私はこの美しい姿に小堀遠州の「綺麗さび」を観ます。



五葉松

鉢：和丸

山崎 純一（富山県）

入手以来、約 15 年間育ててきました。はじめは人工的な曲^{くせ}が目につきましたが、古さが出ると目立たなくなりました。今後は葉数を減らし、小さくまとめてゆきたいと思います。



真柏 鉢：紫泥長方 菊岡 成泰（奈良県）

山採り品の真柏で、四国の石鎚山^{いしづちさん}の産出と思われます。非常に珍しく、私の所蔵する中でも特に貴重な一鉢です。

五葉松

鉢：和外縁丸

野上 和義（富山県）

懸崖として仕立てられた五葉松を、10年ほど前に根上りの吹き流しとして改作した作品です。立ち上がりから幹の流れには風雪に耐え、しっかりと根付く自然樹の厳しさが感じられます。今回が初出展となります。父から受け継いだ盆栽と共に、私も盆栽作家として成長していきたいと思っています。





赤松 鉢：南蛮丸 米沢 増雄（東京都）

細幹の素材を生かして観賞できる盆栽は、多くの愛好者が望んでいるところですが、この樹はまさにそれを体現した作品といえます。今後の更なる培養を楽しもうと思います。



五葉松

鉢：中渡紫泥玉縁楕円

馬場 守一（群馬県）

樹勢維持に努めています。枝をコンパクトにまとめました。

作家展主旨

本協会が主催する作家展は、生きた伝承芸術、盆栽作家の精神高揚と高度な盆栽美を作出することにあります。

盆栽作家は人間性の豊かな感性を磨き、自然愛を基本とした芸風を作品に表現されることが、最も大切であり、お互いを研鑽し合い、盆栽文化の一層の発展を切望するものであります。

しかし、盆栽作家をめざす条件は大変に厳しく、自然との調和を図り、永い修練の中から体得し、その積み重ねから美の心を包合する作業であります。今日の作家群が明日の社会にクリエイティブなボンサイ・アートとして、環境保全等に貢献できることを期待いたします。

第28回 作家展 後期

ギャラリートーク
(解説・山田理事長)





真柏（銘：雲龍） 鉢：紫泥外縁長方 小林 國雄（東京都）

水吸い^{みずす}の躍動感と捻転するシャリ幹に魅せられ、15年前から手がけています。東北真柏の葉性^{はしょう}だったものを、5年前に衣替えし、太すぎた水吸いを徐々に細め、樹格向上に努めました。

杜松

鉢：山秋太鼓胴丸

秋山 実（山梨県）

杜松はジン・シャリの先端が鋭く真っ直ぐに尖り、真柏とは違う趣があります。捻転も少なく、樹形も真っ直ぐに伸び、その性質がよく現れています。杜松らしい真っ直ぐな幹と厳しい環境で樹芯が枯れてもなお耐えて育ち続ける樹形を表しました。右の枝を切除し、左の枝のみを使い、さらに厳しい情景を作りあげました。





赤松 鉢：和木瓜 山口 理津子（東京都）

厳しい環境で長い年月を経たであろう、野趣が見所の赤松です。型にとらわれない樹形で、山ずれの味わいを表現できていると感じます。大自然の木々から学ぶ事の多い盆栽ですが、この樹から何か感じて頂けたら幸いです。



さんしゅゆ
山茱萸

鉢：和長方

風間 雄一（千葉県）

中国、朝鮮半島原産のミズキ科の落葉高木です。長年の手入れにより小枝はほぐれ、雄大な景色を連想させてくれます。鉢持ち込みの非常に古い一樹です。



皐月（大盃） 鉢：和鉢 陳 怡 (Chen Yi)（上海市）

年月の経過を物語る太幹には日本の盆栽を引き継いでこられた先人の苦勞がつまっているように思います。私も中国の一作家として、盆栽のみならず、盆栽を作る「人」を育てられるよう精進して参りたいと思います。



杜松

鉢：和長方

吹田 勇雄（宮城県）

文人盆栽としての素材の良さに一目惚れし、さらに改作を試みました。「文人に始まり文人に終わる」との言葉を残された、故中郡英夫先生の教えを胸に、少ない枝の中でも右中間部の枝をジンにし、上部の屈曲した頭部の幹を生かして枝の長短を整えて作りました。



真柏 鉢：古渡雷文下方 福舘 治（東京都）

岩手県の三陸海岸で山採りされた真柏です。国風盆栽展に出品された後、糸魚川真柏への衣替えがされています。自生地環境により作り出されたジンとシャリが見所です。さらなる樹格向上を目指して、精進して参ります。

五葉松

鉢：行山楕円

阿部 健一（福島県）

実生から30年手がけ、1988年の春に鉢上げし、秋に最初の整形をして双幹の姿を作りました。その後、幹を調整し芯を切り、枝を立ち上げ、現在の樹冠部となりました。幹の流れを強調する為、前と左脇の枝を外し、裏枝も奥行が出るように整えました。上部に風を感じるような作りとしています。

